

ハウチワカエデ *Acer japonicum* Thunb.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 12。温帯性の樹木で、愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

落葉性の小高木。高さ 7~10m になる。葉は対生し、有花枝に 1 対、無花枝に 1~3 対つき、長さ 2~4cm の柄がある。葉身は掌状に浅~中裂し、長さ 5~9cm、幅 6~11cm、基部は心形、裂片は 9~11 で先端は短くとがり、辺縁に重鋸歯がある。花期は 5~6 月、花序は散房状、有花枝の先端に頂生して下垂し、1 花序に雄花と両性花が混在する雄性同株、花は一つの花序に 10~15 個つき、暗紅色である。果実は 2 つの分果に分かれ、それぞれの分果は長さ約 2.5cm、翼はほぼ水平に開く。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 44835, 1993-6-27)、2 豊根 (芹沢 81925, 2007-8-4)、4 津具 (小林 45731, 1993-7-31)。

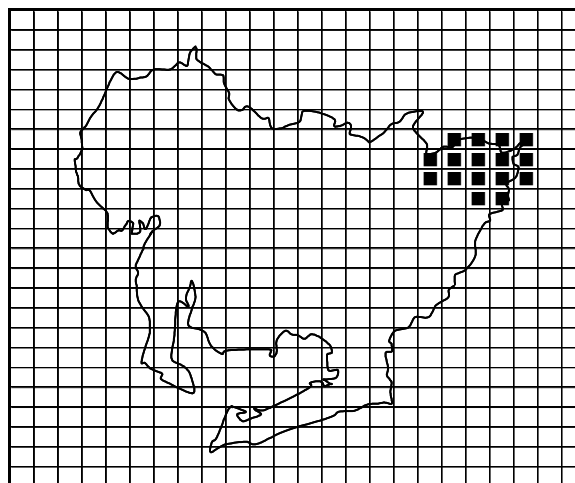
【国内の分布】

北海道および本州。長野県まで行けば普通に見られる種類である。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

ブナ林内等に点在しているが、個体数は極めて少ない。希少種であることを意識しない伐採等により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

愛知県では希少な樹木であることを認識する必要がある。茶臼山周辺は、愛知県内では温帯性の植物が集中して生育している場所であり、自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、現在以上の開発を避けるべきである。

【特記事項】

愛知県産のもの写真は、「植物からの SOS」 (SOS 旧版) p.10 に掲載されている。

【関連文献】

保木本 I p.290, 平木本 II p.11, 平新版 3 p.290, SOS 旧版 p.10, 63.